

## かわさき区の宝物シート

宝物No.
30-1

につぼのほん

ニッポノホン

移 転

エリア	—	シーズン	—
	—	日時	—

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	東京都港区虎ノ門四丁目1番40号江戸見坂森ビル
問い合わせ	日本コロムビア株式会社
TEL	03-6895-9001 (代表)
FAX	03-6895-9115 (広報)
E-mail	
URL	<a href="http://columbia.jp/company/corporate/history/index.html">http://columbia.jp/company/corporate/history/index.html</a> (日本コロムビア株式会社/会社沿革)
交通	



写真提供：日本コロムビア（株）

### 基礎情報

■明治43年(1910)4月、日米蓄音機製造株式会社（後の日本コロムビア）から発売された国産蓄音器の第1号。朝顔形のラッパが付いている「ニッポノホン」全4機種が同社川崎工場生産され、当時の平均月収である35円（機種によって25～50円）で販売された。  
 ■平成14年(2002)の日本コロムビアの社名変更・分社化に伴い、「ニッポノホン」はコロムビアミュージックエンタテインメント(株)に移転された。その後平成22年(2010)の創立100周年を機に社名は再び日本コロムビア(株)となり、現在は港区の本社内に大切に保管されている。

### 由来・エピソード

■蓄音機が日本に初めて上陸したのは、トーマス・エジソンの発明からわずか1年後の明治10年(1877)のこと。しかし、音の出る「魔法の小箱」が商品として一般に出回るようになるのはそれから約20年後のことで、横浜の輸入商を通して日本に入ってきたのが最初であった。  
 ■この蓄音機を輸入したアメリカ生まれのフレデリック・ホイットニー・ホーンが、国産の円盤レコードと蓄音器の製造を目指して明治40年(1907)10月に設立したのが日米蓄音機製造(株)である。川崎に進出した近代産業の草分け的存在として、現在の川崎区港町に工場を建設すると、明治42年(1909)4月に操業を開始し、5月には国産第1号となる円盤レコードを発売した。そして翌明治43年4月には、国産蓄音器第1号「ニッポノホン」の製造・販売の開始に至った。同年10月に(株)日本蓄音器商会として法人化された。  
 ■昭和6年(1931)にはコロムビア商標を英国コロムビアから譲り受け、全てのレコードのマークを音符のコロムビア・マークに統一。東洋一のネオン塔が工場屋上に建てられたのもこの年である。以後、日蓄工業(株)を経て、終戦後の昭和21年(1946)、日本コロムビア株式会社に商号が変更された。  
 ■平成14年(2002)、日本コロムビアはコロムビアミュージックエンタテインメント(株)と社名を変更したが、平成22年(2010)、創立100周年を迎え、社名を再び日本コロムビア(株)とした。

### 補足・その他

■現在「ニッポノホン」の一般公開は行っていないが、企画展示などのためのレプリカの貸出を行っている。

### 関連シート

(5-4)京浜急行大師線 港町駅  
 (31-1)コロムビア・ネオン塔  
 (32-4)佐藤惣之助

※「移転」のシートでは、川崎区外に移転してしまいましたが、後世に語り継いで行きたい宝物を紹介しています。  
 「かわさき区の宝物」とは？ <http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-2-7-2-1-0-0-0-0.html>